

第 57 回全国学童保育研究集会（20221029~20221030）レポート

【クラブ】（ 風の子クラブ ）

【名 前】（ 川原 郁美 ）

①2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（ 10 ）分科会 （ 安心して関係を築ける人数に「40 人以下」の実現を考える ）

※全体会のみに参加の場合は、全体会の記念講演のタイトルをお書きください。

②この分科会を選んだ理由をお書きください。

現在風の子クラブが直面している問題で、考えるべきテーマだと思ったからです。また、全国を通してどれだけの学童保育所が、同じような問題を抱えているのか、その問題に対してのアプローチとして行政に行っていることや、保育内容の工夫があるのかを知りたいと思ったからです。

③2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

全体会では、普段知ることのできない海外の現状と、子どもの生活や心情について知ることができました。現代にこんな生活を強いられている子どもたちがいるのかと衝撃を受けました。大人たちの勝手な都合で振り回される子どもたちがこれから少しでも減っていくことを祈るとともに、自分自身も子どものことを考えて、都合を押し付けたり、振り回したりしないように、子どもの思いに気づいて寄り添える大人でありたいと思いました。

分科会では、今回初めて、他の地域の指導員さんと交流する形の分科会に参加させていただきました。現場の指導員さんからの話を聞くことができ、地域ごとの学童保育所の運営の仕方の違いや、指導員さんごとの保育についての考え方を知ることができて、楽しく学ぶことができました。加えて、行政との細かい絡みや、お金のことなど、自分にはまだまだ知らないことがあるということに気づくことができました。

小規模の分科会で、参加されている指導員さんが中堅からベテランの方々に、話についていけない部分もありましたが、後半に行われた「おやつ」についての意見交換や、大人数を保育することの大変さについては共感できる部分と、新たに得たものがありました。行政が学童保育施設を作ることにお金の面でも、あまり前向きではない自治体があったり、少子化という割には学童保育所を利用する小学生が増加し続けている現状だったり、箱だけを増やしても指導員（支援員）数が確保できずに子どもたちの安全が守れるのかという不安であったりには、特に共感しました。

「おやつ」についての意見交換では、もう少し少人数であれば、子どもたちと一緒におやつを作ったり、のびのびゆったりとおやつの時間を過ごすことができたりするのに、、、という指導員さんたちの思いや、人数が増えるほどアレルギー対応も難しくなり、安全確保が確

実際にできるのかという不安な思いがありました。いろいろな観点から考えて、平日はおやつを提供していない施設もあり、驚きとともに、考えることがたくさんあるなど改めて感じました。

大人数を保育していることで、実は我慢をしている子どもがいることを知りました。子ども達の安全でのびのびとした生活の保障と、それを実現するための施設の設置、また、学童保育所と放課後児童支援員についてもっと知ってもらうことで、働き手を増やしたり、施設の設置について理解をしてもらったりできる工夫や活動をしていければなと思いました。

※提出されたレポートは、当会の広報誌やホームページに掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、11月13日（日）です。常勤・専任指導員に手渡し、または FAX：0564-32-0325 までお送りください。